

開業まであと200日 2024年春、
北陸新幹線ついに福井へ。

朝倉義景、柴田勝家、結城秀康

北陸新幹線福井開業200日前シンポジウム

福井の歴史

福いいネ! GP グランプリ

ここが面白いPR合戦

2023.8/27(日)

13:30~15:15 ※13:00開場
ハピリンホール
福井市中央1-2-1

— プログラム —

《開会》13:30 主催者挨拶 福井市長 東村新一

《第一部》13:35 古市憲寿氏 基調講演「日本史の中の福井」

《第二部》14:30 トークセッション

「福いいネ! グランプリ

朝倉義景、柴田勝家、結城秀康 福井の歴史ここが面白いPR合戦

[コメンテーター] 古市憲寿氏

[登壇者] 岸田清氏(一般社団法人 朝倉氏遺跡保存協会会長)

大河内勇介氏(福井県学芸員)

白嶋祐司氏(福井市学芸員)

《閉会》15:15

～アンケートご協力のお願い～

この度は、「北陸新幹線福井開業200日前シンポジウム 福いいネ!GP 朝倉義景、柴田勝家、結城秀康 福井の歴史ここが面白いPR合戦」にご参加いただきありがとうございました。皆さまのご意見を今後の参考にさせていただきたいので、アンケートにご協力を願いいたします。

右記のQRコードを読み取ってご回答ください。※回答期間:8/27(日)~9/3(日)▶



朝倉義景
(1533~1573)



柴田勝家
(?~1583)



結城秀康
(1574~1607)



朝倉氏の祖先は、但馬国(たじまのくに)に、現在の兵庫県北部)の豪族で、南北朝時代に守護の斯波(しば)氏に従って広景が越前に入ったのが越前朝倉氏の始まりとされる。7代孝景は応仁の乱の勝敗を左右するほどの権力を握り活躍。越前から斯波氏の勢力を追い出し、支配の根拠地として一乗谷の城下町をつくった。町には家臣の住居、寺院、町家などが立ち並び、万人が暮らしていたとも言われ、全国有数の城下町であった。11代義景の時代に最も繁栄し、後に室町幕府の將軍となる足利義昭も朝倉氏の経済・軍事的援助を求めて一乗谷を訪れている。

織田信長に古くから仕え、家臣団のトップとして織田家を支えた。姉川の戦いなど、数々の戦いで功績を挙げる。1570年の六角(ろっかく)氏との戦いでは、敵に城を囲まれる中で、自軍の水瓶を全て叩き割り、決死の覚悟を見せて家臣を奮い立たせ、勝利に導いたと伝わる。1575年に越前を与えられ、9重の天守を誇ったとも言われる北庄(きたのしょう)城を築いて信長の妹である妻のお市と、その子である茶々、初、江の3姉妹とともに暮らした。

徳川家康の次男。11歳の時に豊臣秀吉の養子となり、秀吉と家康の名から「字ずつをもらい、秀康と名乗る。その後、下総国(しもうさのくに)、現在の茨城県南部)の名門、結城家の養子となった。武勇に優れ、多くの戦に参加し、関ヶ原の戦いでは、会津にいた上杉景勝を抑える役割を家康から与えられた。その功績を認められて越前国68万石の藩主となる。福井藩は幕府の制度にとらわれない「制外(せいがい)の家」として諸大名の中でも別格の扱いを受けた。また、北庄(福井)城と城下町の大改修を行い、現在の福井市の基礎を築いた。

ふるいちのりとし 古市憲寿氏

1985年東京都生まれ。社会学者。若者の生態を的確に描出し、クールに擁護した著書『絶望の国の幸福な若者たち』(講談社)などで注目される。「経済財政動向等についての集中点検会合」委員、内閣官房「クールジャパン推進委員」メンバーなどを務める。日本学術振興会「育志賞」受賞。他の著書に『だから日本はズレている』(新潮新書)、『保育園義務教育化』(小学館)などがある。2018年には初の小説単行本『平成くん、さようなら』(文藝春秋)、『誰の味方でもありません』(新潮新書)、小説『百の夜は跳ねて』を刊行。最新刊には「正義の味方が苦手です」(新潮新書)。慶應義塾大学SFC研究所上席所員。



きし だ きよし
岸田清氏
一般社団法人
朝倉氏遺跡保存協会会長

昭和42年の一乗谷朝倉氏遺跡発掘に伴い、地元の歴史に興味を持ち、一般社団法人朝倉氏遺跡保存協会に入会。以来、一乗谷朝倉氏遺跡のガイドや観光PRに取り組む。平成20年より現職。平成23年福井市功労者受賞。

おおこうち ゆうすけ
大河内勇介氏
(福井県学芸員)

京都大学大学院文学研究科(日本史学)修了後、福井県に勤務。中世史、とくに戦国時代の古文書を専門とし、福井県内の古文書調査・保存業務などに携わる。県立歴史博物館特別展「明智光秀と越前」、「いまに残る一乗谷の記憶」を企画。専門は文献史学。

しらしま ゆうじ
白嶋祐司氏
(福井市学芸員)

皇學館大學文学部国史学科卒業後、福井市に勤務。福井市内の遺跡発掘調査や文化財の保護業務などに携わる。郷土歴史博物館特別展「明智光秀と越前」、「いまに残る一乗谷の記憶」を企画。専門は文献史学。